

# 令和4年度 在宅ケア研修会質疑応答

令和5年2月10日（金）の研修会を御視聴いただき、ありがとうございました。  
研修会時の講師への質疑応答について、次のとおり掲載いたします。

## 質問1

歩くことは素晴らしいと思います。ただ、御自身の危険予知能力の低下により目が行き届かないところでの転倒につながるため積極的になることができません。

## 回答

実際にユマニチュードをしている施設では、歩けるところに対して歩いていただくということで「歩かないで」とか「立たないで」という言葉かけはされていませんでした。その施設長は『立つということは解剖学的、生理学的な利点もある』という説明もし、立つことを御本人が希望するのであれば、自立、自己選択、自己決定も尊重しなければいけない。人として尊重しなければいけない。」というお話をされていました。

必ずメリットとデメリットを説明し、最終的に御本人や御家族に決定してもらいます。

施設でも、転倒するという危険性が大きいけど、立つということ、歩くということを選ばれたのであれば、転倒しても「ほら、こういうことになったでしょう」ということではなく、施設として、専門職として最低限になるような努力はやっていきます。

例えば、当施設では職員がたくさんいるわけではなく、センサーだけでも間に合わないので、見守り介護ロボットを導入しました。

立って歩くようになったとき、エレベーターや階段で降りようとされる場合も、ドアに鍵を掛けたり、フロアをクローズにするのではなく、ドアだと分からないように、本棚の壁紙をドアに貼ってカモフラージュをしたりして、極力、御本人がやりたいということを奪わないようにしました。

奪うことによって、結局、行動心理症状が出るということで、御本人や御家族と話し合いながら、そういう危険性も含めて進めていきます。

そういう形にしたところ、当施設では転倒が非常に減り、行動心理症状が減ったというデータが残っております。

実際に自分たちがそれをどうとり、考えるかということ、みんなでディスカッションしながら、御家族御本人も含めたカンファレンスを進めていきました。

御本人の自立、自己選択、自己決定、人の尊厳性をどう考えるということが大事なところだと思えます。



## 質問2

見る、話す、触れる、立つの重要性を学ぶことができました。いろんな方に利用できるということですが、精神障害の方にも使用はできますか。

## 回答

今、日本でもいろんな大学—京都大学、九州大学、静岡大学等でその辺りの研究が学会の方とされています。

自閉症の子どもたちに対してユマニチュードを試みていこうということをやっています。ただし、触れられるのが嫌な方もいらっしゃいます。

そういう方には強制的に触れるのではなくて、例えば、認知症の高度な、非常に暴言・暴力が酷い人に対しても、まずは見る、話す、触れるということをしるべくやろうとしてもうまくいきません。

まずその方の近くに座るということから始めていきます。座るけど何もそこで話したり触れたり見たりはしない。

逆にその方がこちらをちらっとでも気づいたら、見られるようになったら、少し距離を詰めていく、という形で徐々に行きます。見るという距離を少し狭めていって、それから話す。「こんにちは」から目が合ったとすると、状況を見ながら少しずつ見る。話すことができたら触れていく。そういう形で段階的にやっていく必要があります。

どこをどのように触れたらよいか、どういう見方をしたらいいか、どんな話をしたときに症状が穏やかになっていくかというところを、IT機器等を使って今研究がなされているところです。

実際にすぐに正面から見る、話す、触れるといくのではなくて、その方の状況を見ながら。特に知的障害、精神障害の方はそういう形で距離を進めていきます。

## 質問3

ありがとうございます。御本人の尊厳を最大限に尊重したいと思います。努力を続けて良い最期を迎えていただきたいと思います。

(※質問ではありませんが、このお言葉に対しての森山先生のお話です)

## 回答

そうですね。やっぱり大事にしなきゃいけないっていうところを、私たちが何を考えて、ケアする人として、専門職として、何をするかっていうところです。改めて私もユマニチュードを学ばせてもらったり、利用者さんの私に対するお願いですよ。思いを聞いたときに、私たちは何を考えなきゃいけないのか。もっと言えば、普通のことなんだと、普通のことをだんだんケアの中で忘れてしまっている自分がいそうところで、それをどういうふうな届け方をしたらいいかっていうところです。これは全てではないですが、一つの手段として、ユマニチュードというのを今回ご紹介させていただきました。

もし参考に、現場で、皆さんがその辺りの届け方をちょっと意識してさしてみる。一番大事なのは、ケアが必要な人だけじゃなくて、まず今日終わったら、御家族に対して、見る、話す、触れるをやってみるとか。それから友達や、明日の朝、職場に行ったときにそれをやってみるといふ身近なところからですね、少しずつやられていけるというのもいいんじゃないかなと思います。

ありがとうございました。